

# 国語科学習指導案

日時 平成 22 年 5 月 28 日 (金) 第 6 校時

対象 鹿児島市立 鴨池中学校 2 年 1 組  
(男子 20 名 女子 18 名 計 38 名)

指導者 教諭 別府 千鶴子

単元名 ころをかわす「短歌の世界」(三省堂 2 年)

## 単元設定の理由

### 1 内容的意義

短歌は五・七・五・七・七という短い字数で成り立っている。千年以上もの歴史を持つ短歌に、人々は四季の移り変わりや恋心、人の死を悼む気持ち、その他日常の様々な出来事などを詠みこんできた。

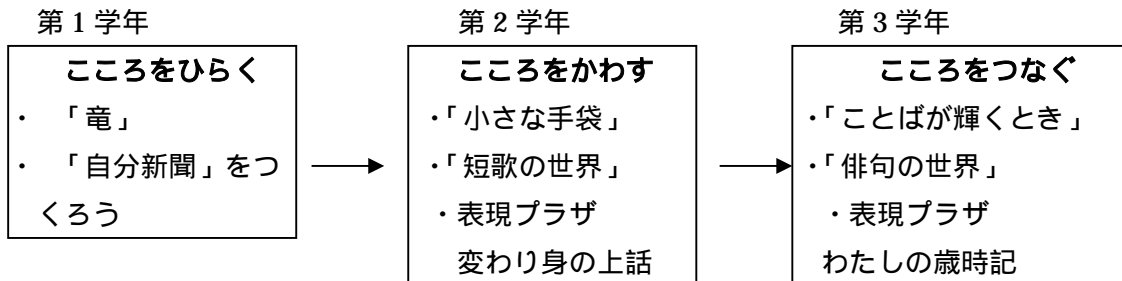
現在でも、短歌を詠むことで普段は気づかないような部分に触れたり、景色に託された感情に気づいたりすることができる。短歌に親しむことで、様々なものの見方や感じ方などを知り、現実を広い視野で、また様々な角度で捉えることができるようになるだろう。また、短歌の表面的な意味を理解するだけでなく、その裏にある心情や背景を知ることは、これから著しい成長を遂げる生徒にとっては大変有益なことであると考えられる。

### 2 言語的意義

本単元で扱う短歌は、三十一文字という短い字数の中に、効果的に思いを込める手法を十分に味わうことができる。そのような表現の工夫を具体的に学ぶことで、生徒の表現活動は広がっていくものと考えられる。また、学んだことを生かして短歌を作り、表現の幅を広げる機会としたい。

### 3 連関的意義

本単元は、そのねらいと教材・学習活動の構成の系統において、3 か年指導計画の中で次のような関連を持つ。



## 単元の目標

領域	目標（評価規準）	学習指導要領との関連
A 関心・意欲・態度	自ら進んで短歌を読み味わい、短歌独自の世界に興味・関心を持つことができる。	
B 話すこと・聞くこと	他人の意見や考えを聞き、自分の意見や考え方を広めたり深めたりして話そうとしている。 情景や感動の中心をとらえながら、朗読しようとする。	エ ア
C 書くこと	短い詩形に込められた作者の思いを、自分の言葉で書こうとしている。	ア
D 読むこと	表現上の技法とその効果をしっかりと捉えようとする。 短い詩形に込められた作者の思いや背景を読み取ろうとする。	ウ イ
E 言語事項	歴史的かなづかいを現代かなづかいになおすことができる。 難しい言葉を理解し、正確に使うことができる。	(1)ア (1)イ

## 教材の視点

### 1 生徒の実態

明るく素直な生徒たちが多く、間違いを恐れずに自分の考えを述べるができる。その一方で、深く考えて発言したり行動したりする配慮に欠けるところもある。この単元を通して、短歌に描かれている表面上の意味だけでなく、その奥にある背景や心情を読み取るとは、生徒の視野を広げ、考えを深めるために大変有益であると考え。簡単に答を出すのではなく、じっくりと短歌を味わい考える時間を取りたい。また、人の意見を聞いて自分の考えを深めることが苦手な生徒もいるので、人の話をきちんと聞いて、それに対する自分の意見を持ち、伝えることができるような活動も取り入れて生きたい。

### 2 研究テーマとの関連

本年度の本校の研修テーマに基づき、以下の視点を加えたい。

#### 研修テーマ

わかる、できる、楽しい授業をめざして  
～個に応じた指導の工夫

#### 研修テーマに基づいた視点

##### ア 「わかる」基礎基本となる力を踏まえた授業のあり方

- ・ 短歌の基本的な形式やきまりなどを徹底して覚えさせ、自分の知識となるような指

導を工夫する。

- ・ 基本的な歴史的かなづかいを理解させ、現代かなづかいになおせるように指導を徹底していく。

イ 「できる」生徒自身が自己の変容に気づく評価のあり方

- ・ 学習前と学習後の短歌に対する理解力がどのように変容したかを振り返らせる。また、どの短歌が最も印象に残ったかを振り返らせて、自分の考えで短歌の解釈ができるようになったことを実感させる。
- ・ 取り上げた表現技法に関する発問を何度も行い、理解を定着させることで、その知識が身についたことを実感させる。

ウ 「楽しい」学んだことを活かす目標の設定のあり方

- ・ わかる楽しさを実感させ、自分自身の力で短歌を読み取ることの楽しさを感じさせる内容を工夫する。
- ・ 学んだことを活かし、自作の短歌を作り上げ、互いの短歌を読み味わい、短歌の自由で、奥深い世界に触れることができるようにする。

#### 教材の指導

1 教材名「短歌の世界」

2 教材の指導目標

短歌のリズムや表現方法とその効果をとらえさせる。

短歌に描かれた世界を豊かに想像し、味わわせる。

話し合い活動に積極的に参加させる。

3 教材の指導計画（全4時間）

時間	学習活動	指導上の留意点
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">短歌の形式やきまりを理解し、音読することで短歌の世界に触れてみよう。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 今まで学習した短歌について振り返る。</li><li>2 短歌の歴史や、どのようなことが詠まれてきたかを理解する。</li><li>3 正岡子規、寺田修司、栗木京子の短歌にふれ、それぞれの短歌を音読してみる。</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 短歌の形式を理解させる。また俳句との違いにも触れる。</li><li>・ 教科書を参考に短歌にはどのような内容のものがあるのかを理解させる。</li><li>・ 短歌を実際に音読することで、そのリズムを味わう。</li></ul>
2 本時 ～ 3	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">短歌を鑑賞し、描かれている情景や心情を読み取ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 一首ずつ短歌を取り上げ、どのような情景を描かれているか、またその背景や心情</li></ol>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒の自由な発想を大切にして、他人の意見を聞く態度も身につけさせ</li></ul>

	<p>を読み取る。</p> <p>2 効果的な表現技法などを理解する。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的に使われている表現技法を理解させる。</li> </ul>
4	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自作の短歌を作ろう。</p> <p>1 学んだ短歌を振り返り，どの短歌が好きか，またその鑑賞分を書く。</p> <p>2 習った表現技法などを使って自作の短歌を作ってみる。</p> <p>3 他人の作った短歌を読み，その良さを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した全ての短歌を振り返らせる。</li> <li>体言止め，倒置法，反復法などの表現法，また句切れなどを復習させる。</li> <li>それぞれの短歌の良さを見つけさせる発問の仕方を工夫する。</li> </ul>

#### 4 本時の実際

##### (1) 指導目標

- 短歌を鑑賞して描かれている情景や心情を読み取らせる。
- 短歌に使われている表現技法を理解させる。
- 話し合い活動に積極的に参加させる。

##### (2) 本時の実際 (2 4)

過程	学習活動	時間 形態	指導上の留意点
導入	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 本時の学習目標を設定する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">短歌を鑑賞し，描かれている情景や心情を読み取ろう。</p>	3分 一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌のきまりや歴史，どんな内容が詠みこまれているかを確認させる。</li> </ul>
展開	<p>3 6つのグループに分かれ，それぞれのグループで短歌に詠まれている情景を考える。</p> <p>4 一首ずつ担当グループで発表し，</p>	7分 グループ  37分	<ul style="list-style-type: none"> <li>1グループに一首ずつ短歌を割り当て，その短歌に詠まれている情景を想像させる。</li> <li>短歌に詠まれている情景を想像したものを，画用紙に書いて前に持ってくるように指示する。 (ペンと画用紙の準備)</li> <li>一首ずつ考えた内容を発表し，補</li> </ul>

	<p>その短歌の表現技法を理解する。</p> <p>みづうみの氷は解けてなほ寒し 三日月の影波にうつろふ</p> <p>海恋し潮の遠鳴りかぞへては 少女となりし父母の家 みちのくの母のいのちを一目見ん 一目見んとぞただにいそげる 春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと 外の面の草に日の入る夕 白鳥は哀しからずや空の青 海のをにも染まずただよふ やはらかに柳あをめる 北上の岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに</p>		<p>足・説明を加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史的仮名遣い，句切れなどの基本的なことを押さえる。</li> <li>・ 「影」という言葉の意味の確認。</li> <li>・ 句切れの確認。</li> <li>・ 体言止めの復習。</li> <li>・ 反復法の復習。</li> </ul> <p>・ 「な～そ」の用法の説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体言止めの確認。</li> <li>・ 作者の心情理解。</li> <li>・ 句切れの確認。</li> <li>・ 倒置法，擬人法の確認。</li> </ul>
終末	<p>5 本時を振り返り，自己評価をする。</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に自分の意見を伝えることができたか。人の意見を聞くことができたかを振り返らせる。</li> <li>・ 残りの六首は，本時でグループで行った内容を個人でできるようになることを目標とすることを示す。</li> </ul>

(3) 本時の評価

話し合い活動などを通して，短歌の表現技法やリズムを理解し，詠まれている情景や心情を読み取ることができたか。

# 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

日 時 平成 22 年 9 月 8 日（水） 第 3・4 校時  
対 象 1 年 1 組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名  
指導者 教 諭 白 土 師 直 弘

## 1 題材名

D 情報に関する技術 「デジタル作品の制作」

## 2 題材設定の理由

近年の情報通信技術の発達はめざましいものである。装置そのものの発達も進んでいるがそれらをネットワークで結び、相互に通信することは、今では当たり前のこととなってきた。しかし、情報通信技術の恩恵を個人レベルで受けることができるようになってきたのは、この 20 年ほどのことである。それまではコンピュータに頼らずに行われてきた事柄も、徐々にコンピュータ上での作業に置き換えられてきている。そのため、得意、不得意に関わらずコンピュータと関わる生活形態となってきている。そこで、中学生がよりよいコンピュータ活用ができる能力の育成をはかり、生活や将来の仕事に役立てることは有意義なことと考える。

「D 情報に関する技術」では、情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力を育成することをねらいとしている。特に、デジタル作品の設計・制作については、デジタル作品の設計・制作を通して、メディアの特徴と利用方法を知り、多様なメディアを複合し、表現や発信ができるようにするとともに、目的に応じてデジタル作品の設計を工夫する能力を育成することをねらいとしている。

指導に当たっては、プレゼンテーションソフトウェアで課題を制作する際、プレゼンテーションの対象はどのような層なのか、効果的に内容を伝えるにはどのような工夫が必要なのか考えることに重点を置きたい。また、使用する素材の著作権に配慮することも伝えたい。さらに、「C 生物育成に関する技術」で学習を進めたミニトマトの栽培を今回の題材とすることで、生物育成に関する内容もあらためて深めることができると考える。これらの学習を通して、コンピュータを上手に利用した情報伝達について考え、生活の場面で利用することができる生徒の育成につなげたい。

### 3 指導目標

デジタル作品の設計・製作をする活動を通して、メディアの特徴と利用方法を知り、多様なメディアを統合し、表現や発信ができるようにするとともに、目的に応じてデジタル作品の設計を工夫する能力や態度を育てる。

- (1) メディアの素材の特徴と利用方法を知る。
- (2) 適切なソフトウェアを選択できる。
- (3) 多様なメディアを複合する方法について知る。
- (4) 設計にもとづき、多様なメディアを複合して工夫しながら制作することができる。
- (5) デジタル作品を設計したり、工夫したりする中で、新しい発想を生み出し、活用することの価値に気づく。

### 4 指導計画

学習内容	配時	主な指導内容
デジタル作品の設計 素材の準備 デジタル作品の制作 (本時 1～2 / 4)	4	<ul style="list-style-type: none"><li>・制作の前に、作品の大まかな流れを考える必要があることを知らせる。</li><li>・素材の状況で設計が変わることを知らせる。</li><li>・目的や条件に応じた作品の制作を行う。その際、表現や発信したい内容をしっかり伝えることを理解させる。</li></ul>
デジタル作品の発表	2	<ul style="list-style-type: none"><li>・内容を正確に伝えるために発表の方法を工夫することを伝える。</li><li>・友だちの発表を見て、いろいろな工夫や伝え方があることを理解する。</li></ul>

### 5 生徒の実態

世の中に情報機器が普及している実態を反映し、1年生は家でコンピュータを利用している者が多い。また、小学校段階におけるコンピュータを利用した授業の体験をふまえ、コンピュータを使うことに抵抗のある生徒は少ない。授業にも意欲的に取り組むことができ、課題に対する到達度も高い。このように、機器の操作に長け、インターネットでの情報検索もスムーズに取り組むことができる反面、情報モラルや危険性については、授業で取り扱うまで深く理解していなかった生徒が多い。しかし、情報モラルについて、用語の知識、対応の方法について断片的に知っている生徒は以前より増加している。指導の際は、著作権等も含めたデータの取り扱いについて、その態度、注意点について指導することを心がけたい。さらに、授業の中で可能な限り汎用ソフトウェアを使用し、自宅でも活用できるようにしたり、達成感を味わえるような実習を採り入れるなど、関心をさらに高める指導の工夫が必要であると考えられる。

## 6 本時の実際

### (1) 主題

プレゼンテーションソフトウェアを活用しよう (1/4)

### (2) 指導目標

パワーポイントを利用してスライドを作成する活動を通して、メディアの特徴と利用方法を知り、表現や発信ができるようにするとともに、目的に応じてデジタル作品の設計を工夫しようとする意欲や態度を育てる。

### (3) 目標行動

パワーポイントの機能を活用しながら、目的にあわせた画面設計を工夫し、スライドを制作することができる。

### (4) 下位目標行動

- ア メディアの素材の特徴と利用方法について理解できる。
- イ パワーポイントの特徴を理解し、制作することができる。
- ウ 多様なメディアを統合する方法について理解する。
- エ 目的に応じてスライドを工夫することができる。
- オ 試行錯誤する中でさらに工夫を加え、内容が伝わるスライドを制作することができる。

### (5) 授業設計の視点

- ア 問題解決的な学習を通して、知識・技能の向上および定着をはかる工夫  
生徒が比較的取り組みやすい内容の題材を設定し、課題に積極的に取り組めるようにした。また、ソフトウェアの機能を試しながら制作できる学習の流れとし、知識・技能の向上および定着を図った。
- イ 自分の考えを画面上に表現し、他者の意見を制作に反映させるための工夫  
目的に合った作品を制作する過程において、他者の考えも参考に制作を進められる授業の流れとした。
- ウ 領域をまたがった指導の工夫  
生物育成の学習内容を情報の課題の題材とすることで、ともに学習の内容を深められるように意図した。

(6) 本時の実際

過程	学習の流れ	時間	学習活動	指導上の留意点	教材 教具
導入		5分	ミニトマトの栽培の流れを思い出す。 学習課題を設定する。	実習の内容だけではなく、栽培計画，生育管理についても簡単に確認する。	
展開		20分	プレゼンテーションソフトウェアを活用できるようにしよう 制作に必要な説明を聞く。	必要な機能を自分で探し出したり，試してみたりして，目的に応じたプレゼンテーションを作成できるよう指示する。初期のアイデアはワークシートにメモしておくように伝える。	
		25分	ソフトウェアを利用してスライドを制作する。 機能を利用しながら制作を進める。	アイデアに対する操作上の困難を解消するために，机間指導をおこなう。	
終末		15分	よりよいプレゼンテーションの方法を知る	友だちの考えやアイデアを共有する時間をとり，考えさせる時間を適宜設ける。	プロジェクト
		30分	追加説明事項にも留意しながら再びスライドを制作する。	プレゼンテーションの対象，見やすさに重点を置いてよさを比較させる，状況に応じて適切な表現を選択することを伝える。	
		5分	次時の予告を聞く。	発表を想定した制作を進めることを知らせる。また，アイデアはワークシートに書き留めておくよう伝える。	

( 7 ) 本時の評価

パワーポイントの機能を活用し、目的にあわせた画面設計を工夫し、スライドの制作に意欲的に取り組めたか。